

臺灣總督府  
臨時情報部

# 報部

一月上旬號

昭和十五年九月二十日創刊  
昭和十五年一月一日發行  
（每月一日、十一日、廿一日發行）

皇紀二千六百年を迎ふる  
南の據點臺灣  
本府臨時情報部の使命  
新年の辭 小林臺灣總督  
年頭の辭 總務長官森岡二朗  
内外情報・旬間日誌  
行政官一覽表・昭和十四年下半年主要内容

〔第八十四號〕



# 迎新年祈世

## 紀元二千六百年

建設、東

秩序



### 旬 間 日 誌

十二月十九日(火)  
 ○肥料配給統制規則改正 ▼無残な敵冬季攻勢、江南・江北・漢江・南昌・山西北部各戦線で皇軍に撃破さる ▼海軍四川省各要地爆撃  
 十二月二十日(水)防犯週間  
 ○總動員物資使用收用令實施 ▼物價對策機構、綜合的對策樹立へ改組 ▼十五年度海軍豫算合計、十億二千八百九十四萬五千圓 ▼シユヘー號艦長、壯烈な拳銃自殺  
 十二月二十一日(木)  
 ○全島學生々徒聯合演習、臺中州島日平野に展開 ▼獨逸軍百二十萬、白・蘭に進撃開始(佛側情報)  
 十二月二十二日(金)  
 ▼聖上親臨、陸軍々事參議會開催 ▼修正軍備充實計畫、慎重審議

○本島郵便貯金、四千萬圓突破  
 ▼第四次日米會談開催  
 十二月二十三日(土)  
 皇太子殿下第六回御誕辰  
 ○七分搦米の最高小賣價格公定實施 ▼帝國議會召集 ▼大和號、訪伊の壯途に就く ▼東郷・モロトフ會見、漁業條約交渉開始  
 十二月二十四日(日)  
 ○藥品の輸出制限、輸出港は基隆・高雄二港に府令公布 ○臺灣券發行高一億七千三百萬圓に膨脹  
 十二月二十五日(月)大正天皇祭  
 ▼模範囚三百四十一名、假出獄の恩典に浴す ▼龍門(粵漢線東部山嶽要衝)占領  
 十二月二十六日(火)  
 ▼長くも聖上御親臨、帝國議會開

院式に僥倖なる勅語を賜ふ ▼暴利行為等取締規則實施 ▼良口嶺(粵漢線東部山地要衝)完全占領  
 十二月二十七日(水)  
 ○總督府人事異動發表 ▼低物價遂行基本方策決定 政府聲明發表  
 十二月二十八日(木)  
 ▼汪兆銘氏、上海より和平救國の新意義を放送  
 十二月三十日(土)  
 ▼大本營陸軍報道部發表、武漢陥落後の綜合戰果、敵の損害三百萬遺棄死體丈で百二十萬に達す  
 十二月三十一日(日)  
 ▼大和號、ローマに安着 ▼第一回勞務動態調査實施 ▲北鐵讓渡金問題も解決、日ソ漁業暫大協定正式調印終了

## 皇紀二千六百年を迎ふる

### 南の據點臺灣

(其ノ一)

はしがき

臺灣は今次事變勃發以來其の地理的及歴史的特殊事情は固より、多年培ひ來つた南進の氣運と實踐上の經驗とを活用して、南支方面作戦に對する諸種の協力を致すと共に其の後の復興建設に付ても政治、經濟、文化の各方面に亘つてあらゆる機關を動員し、能ふ限りの援助を爲して來たのである。

然るに紀元二千六百年を迎へ諸般の情勢は漸く應急的處理の段階を離れ、本格的な新建設の段階に進まんとしつゝあつて、殊に南支ばかりではなく南洋方面に對しても、新たな施策の必要が認められ、旁々先般新南群島の本島高雄市に編入せられた事等臺灣の南方經營基地としての重要性は速に増大してきたことを痛感する次第である。

茲に於て臺灣としては之を一轉期として益々清新の意氣を作興し、新規の企畫を廻らして、新時代の要求する南方建設の大業に邁進せんと期するのであるが、之が爲には益々南方地域との文化的提携を促進し、親善の關係を増進すると共に、彼此産業經濟の調整を圖り貿易を振興し、日滿支經濟ブロック體制の強化に努め、南方地域を以て新東亞建設の有力な一環を形成させるやうに推進しなければならぬと考へられる。

そして此の光榮ある任務は固より臺灣統治と相關推進されるものであるから、相互検討の上島内の政治、經濟、文化の全面に亘つて改善刷新が必要であることは云ふ迄もないのである。そして之等南方施策の實施に付ては從來から博愛會、善鄰協會、共榮會等の團體が存するのであるが、彼上のやうな新事態に即應する爲去月中旬官民協力の下に新に臺灣南方協會の成立を見た次第である。

#### 南支に於ける宣撫宣傳に對する協力

今次事變の勃發を見まするや本府に於ては臨時情報部を設け、内外各般の情報蒐集及啓發宣傳を開始したのであるが、皇軍南支方面進撃と共に軍の宣撫宣傳の諸工作各般に亘つて相協力し、以て占領地域の復興明朗化の促進に遺憾なきを期して來たが、昭和十三年十月三日共榮會を官民各方面の出資によつて設立し、情報部は共事業に關して指揮監督に當つてをり、廈門、汕頭、廣東、海南島に於て軍と密接なる協力の下に映畫、雜誌、繪葉書、紙芝居等文化事業の經營其他授産事業、教育、衛生等各般に亘つて實施し、日華親善工作に邁進してゐるのである。

#### 南支に於ける衛生施設

財團法人博愛會は從來南支福州、廈門、汕頭、廣東に醫院を開設して居たのであるが、今次の事變勃發後皇軍の同地攻略に伴ひ福州を除いた他は何れも復歸し診療、防疫其他公共衛生事業に當つて居るのである。海南島には昨年四月海口及三亞に醫院を新設し、其の他の地方にも診療所を設け専ら同島に於ける診療防疫事務に努めて居るものであるが、今後更に人的、物的施設の完備充實を計り邦人の進出並に日支親善に盡し以て興亞國策の一助たらしめんとしてゐる。

## 遞信事業

四

南方の礮石臺灣、工業臺灣の姿が漸くはつきりして來るに従つて、臺灣遞信の動きは活潑となつた。或るものは計畫せられ、或るものは既に一部實施せられつゝあり、臺灣遞信の責務愈々重きを覺えるのである。

## 電氣事業

今や農業臺灣は工業臺灣へと推移の過程を辿りつゝある。工業の振興は軍需の充足と南支の新情勢とを織込んだ生産擴充、輸出振興を旨とするものでなければならぬ。産業の高度化は臺灣の進むべき當然の道ではあるが、同時に國家總力の一環として興亞の大理想に協力するものである。臺灣の豊富な雨量と急峻なる地形は隨所に所謂白炭として讀へらる電氣を擁し、工業化への鍵を提示してゐる。

日月潭水力電氣工事は昭和九年に完成した。これに依つて西臺灣に於ける電氣供給については一先相當の整備を了したかに見えたが、その後輕金屬、合金、鐵等電力の大口需要工業の設置及各種需要の増進に伴ひ日月潭電力は意外に早く消化されるに至つたので、更に昭和十二年に日月潭第二發電所、昨年に入つて火力發電所を完成した。然しこのまゝでは澎湃として勃興する工業の需要に應ずることが出来ない。目下霧社、新龜山、宜蘭、圓山等に水力發電所工事が進捗してゐるが、更に大甲溪等につき電氣開發計畫が進められてゐる。

東臺灣はその特異な地形に因り比較的開拓の進んだ西臺灣とは全く隔絶し、宛ら孤島の觀を呈し、從來

電氣の開發は殆んど絶無であつた。然るに花蓮港築港工事も漸く完成に近付き、茲に海上交通の利便拓かるゝに及び東臺灣の電氣も亦利用圏内に入り來つたのである。此の電氣開發を目標として昨年六月東臺灣電力興業株式會社の創立を見、東部に於ける發電事業を一元的に擔當せしむることとした。その出資者は何れも將來電力を大量需要する工業者に限定し、既に計畫の具體化せる工業としては輕銀、ニッケル、窒素工業等が擧げられる。

未開發電力西臺灣百七十萬キロワット、東臺灣八十萬キロワット、計二百五十萬キロワット。之を對象として、明日の臺灣電氣事業、工業臺灣の姿こそ當に刮目すべきものがあらう。

## 海運及航空

天與の資源に恵まれた臺灣は北と南に基隆、高雄の良港を持ち、東に花蓮港々の完成を見つつある。そして西、梧棲の築港工事も既に着手されてゐる。斯くて臺灣はその東西南北に門戸を開いて原料、生産品の出入は自由となり、臺灣自體が謂はゞ一の大工場と化するのである。又南支に展開された新情勢に對應して、南方發展の礮石臺灣としての使命が重きを加ふるに至つた。臺灣と南支との關係は日滿支經濟ブロックの一側面として理解しなければならぬと共に、臺灣の南支に對する指導的地位を確保すべきである。臺灣は廣く南支、南洋に原料を求め、その生産品を内地及南支、南洋に輸出しなければならぬ。各種生産品の昭和十三年度に於ける輸出額は四億五千六百萬圓の巨額に上り、輸出超過は八千九百萬圓に達する。然るに一介の孤島臺灣と之等の地との交通は必ず海又は空に依らなければならぬ。斯く見來る

五

時、南方の礎石臺灣が海運及航空に對して絶大なる關心を寄せるのは當然である。

開港以來臺灣の海運は島内開發に引摺られ、對内地間の輸送に重點を置いて施設し來つた反面、對南支南洋方面の施設は兎角第二義的たるを免れなかつた。内臺表街道たる基隆、神戸線には一萬噸級豪華船六隻を配して隔日航海を實施し、真街道たる高雄東京線には島内重要物産の移出航路として六千噸級六隻を配して萬全を期してゐる。勿論、逐年増加する旅客、貨物を考慮すれば決して現狀に甘んずべきではない。然し南支に對する政治、經濟、文化の緊密化と南洋に對する經濟接觸面の増加に因り、この方面への海運施設が更に急務である。南支開發が漸くその緒につきつつある際、この施設は早晩何等か具體化されるであらう。

内臺定期航空は昭和十年十月臺北、福州間週一回の定期郵便飛行開始以來急速なる發達を遂げ、現在ではダグラスDC2型を使用して旅客、貨物、郵便物の輸送に當らしめ、毎日往復、臺北東京即日連絡を實施してゐる。本航空路は海上長距離に互りその利用價值は極めて大きい、又國際航空路の幹線として重きをなしてゐる。事變發生以來後方連絡機關としての機能を加へ、利用者激増して郵便殆んど満員の盛況である。海運の場合と同様、從來、施設の重點を内臺航空に置いていたが、南支、南洋方面に對しても當然新航空路を開設すべきであつて、目下諸種の計畫具體化が進められてゐる。

#### 放送事業

政治の緊密化、經濟の高度化、文化の發展は、先づ思想の交渉と物の流通とによつて行はれる。この意味で交通を動脈に比すると共に、通信をその神經系統に喩へられるのである。又通信は政治、經濟、文化

の基礎となり、他の施設の先驅をなすものである。領臺四十餘年、凡ゆる方面に於て臺灣は著しい發達を遂げたのであるが、その間、臺灣通信事業の擴大強化も亦實に目覚ましいものがあつた。そして事變の進展に伴ひ、南支の要衝が逐次皇軍の占據するところとなつたが、臺灣はいち早く南支に進出して更にその活躍の舞臺を擴大するに至つた。

内臺間の郵便物は、設備の充實した内臺連絡船、内臺航空に依つて行はれるが、對南支方面は専ら船便を用ひてゐるも、迅速を生命とする郵便物運送につき遺憾の點尠からぬものがあつた。然し事變を契機として我臺灣は南方航空網の中心となり、目下各種準備の進捗を見てゐるから、これが完成の曉は對南支郵便物運送上寄與する處尠なからぬものがあらう。

又事變以來瘴癘の地、南支に多數の野戰郵便局要員を送り、銃後を戦線に結び付ける軍事郵便を扱つてゐる。軍事郵便が如何に皇軍將兵を慰め、元氣付けるかは銃後の常識である。然し吾々は此の際にあつて辛苦を超絶、只管通信報國に生きる野戰郵便局員の功を没してはならない。

事變前に於ける臺灣、南支、南洋間の電信は、福州、香港及マニラにそれぞれ直通信路を持つのみであつた。廈門、廣東、海南島、汕頭と相繼いで皇軍の制下に入つてからは、これら各地の治安回復と經濟復興の爲先づ電信機關の設置が急務となつたので、臺灣より通信機材及要員を派遣して廈門、鼓浪嶼、廣東、海南島海口に於て一般公衆通信業務を扱はしめた。然し各地の治安回復につれ、通信の需要増加が見込まれるので更に既設機關を整備擴充してこれに對應し、以て南支開發促進に貢獻せんとするものである。

臺灣の放送事業は臺北、臺中、臺南の三放送局を持ち、五萬に近い聴取者を擁してゐる。エヂオの持つ周知宣傳の力は既に動かし難い所である。南方に指導力を執る者は先づエヂオを支配しなければならぬ。

臺灣は南支南洋向海外放送を行ひ、在留邦人に母國の聲を送つてその活動力の源泉たらしむると共に、支那民衆、南洋華僑、在留歐米人及土著民に呼びかけて正義日本の力強き姿を知らしめ、東亞新秩序に對する認識を與へ、逆宣傳を制壓してゐる。本放送は正確なるニュースに基く宣傳を主眼とし、その放送對象に應じて福建語、英語、北京語、廣東語、馬來語及國語再放送を用ひてゐる。波長は臺北放送局七五〇キロサイクルの外數種の短波を放射し、電波の浸透を期してゐる。尙大電力放送を行ふ爲、放送所新設工事を進めてゐるが、本年度中には完成の見込である。之が實現の曉には臺灣放送電波の威力一段と強化せられ、南方發展の促進に更に精彩を加へるであらう。

### 航空事業概況

#### 一、定期航空輸送事業

##### 1 內臺定期航空

- イ 創設 (一週三往復)
  - ロ 東京臺北間一日連絡實施 (一週三往復)
    - ハ 毎日航空實施
      - ニ 使用機
        - 昭和十一年一月
        - 昭和十二年六月
        - 昭和十三年四月
        - 大型陸上機

福岡、那覇、臺北を結ぶ内臺定期航空は東京臺北間を一日で連絡する唯一の高速交通機關であつて時局柄特に重要な役割を演じてゐる。本線は前記の通り昭和十三年度より毎日航空に其の施設を改善して以來其の價值は時局と相俟て飛躍的に増大し其の需要狀況を見ると毎便數名の旅客を拒絶して居り又其の座席

獲得に一週間乃至十日を要してゐるやうな頗る不便な現状である。然かも現下時局對策上本島と中央との連絡は軍事、政治、經濟等各般に亘つて最も緊密を要するに至り、且つ國家總動員關係業務極めて繁多にして且つ急速を要する事務は官たると民たるとを問はず異常に増加を來して居るのである。然るに海上交通路を長距離に亘つて有する本島としては汽船航空機の外に代替的交通機關無く而も汽船による時は臺北東京間五半乃至六日を要するばかりでなく連絡は一週僅か三回あるのみであつて航空交通に依存すべき必要は非常に増大し來つて居るのである。然るに現在に於ては申込旅客を完全に消化し得ない實情であるから航空回數を増加するか或は現行以上の大型機を就航せしむるか何れかの方法に依つて輸送の圓滑を計ることは現在及將來への緊急施設として實現を急ぎ止まない次第である。

##### 2 島内定期航空

- イ 創設 (東線一週三往復、西線一週三往復)
  - ロ 臺南馬公線開始 (一週三往復)
    - ハ 島内循環東西兩廻毎日航空並
      - ニ 臺南馬公線偶數日航空實施
        - 昭和十一年八月
        - 昭和十二年九月
        - 昭和十三年四月
        - 中型陸上機

島内定期航空輸送事業も亦十三年度より東西循環兩廻毎日便及び臺南馬公間偶數日航空を開始して時世の要望に應へたのであるが、輿論は之を以て事成れりとせず臺北花蓮港間一便増加、臺南馬公間毎日便の實施は差當り急務となつてゐるのである。

尙以上二事業實施の爲に十四年度に於て大日本航空株式會社に對し本府より内臺線五二五〇〇圓、同じく島内線三六〇〇〇圓の補助金を計上してある。

## 二、對外航空

### イ 對福建省線

本島を起點、基地として對岸中國並に南支南洋方面に航空路を開拓することは經濟上將又國防上必須の事項である。福建省本島人は本島人口の約八割を占めてゐるのであつて對岸福州、廈門等との交渉は必然頻繁であり、此の點に鑑みるに本島統治上對岸との緊密な交通紐帯を作り、對福建省に對し文化、産業上の連絡を緊密にする事は臺灣として東亞新秩序建設に貢獻する處大なるものがあり、延いては本島統治上にも一段の成果を見るものと信ずる次第である。

### ロ 日 泰 線

昨年十一月三十日芽出度協定の成立を見た日泰定期航空協定に依つて、我國は待望の國際航空の輪舞臺に乗り出したので其の進出は世界航空史上に一新時代を劃するものと謂ふべく、彼我の交通は現在船便で一週間を要する處を二日乃至三日に短縮され、加之本線路の開拓によつて蘭領印度方面及歐洲方面へも數日にして達することが出来、現行の船便に依るものと對比する時實に隔世の感がある。此の路線に對して本島としては既に昭和十一年より補助金總額の四割を計上してゐたのであるが、諸種の事情により今日まで實現に至らなかつた。然し今日之が開設を見るに至つたことは本島官民の齊しく慶祝して居る處であつて、實施の曉に於ては圓滑なる運航に付萬遺憾なきを期するものである。

### ハ 臺灣對南洋線

本路線は未だ實現に至つて居ないが之れが實現は各般より見て緊急である。

## 三、飛行場及航空保安施設

### 1 陸上飛行場

本島と共に海の守りとして第一線に位する南洋諸島と本島とが空路により握手する事は、太平洋の波濤を高からしめざる重石として最も緊急なる役割をなすに至るであらう。又米洲と日本との最短連絡が東京パラオ線に依つて行はれたと等しく臺灣を通ずる線路により米洲對亞洲の最短距離コースが出現することゝもなり普隣修交上寄與する處大なるものあるを信ずるものである。

### イ 公共用飛行場

臺北、臺中、臺南、臺東、宜蘭

ロ 其 他

花蓮港、高雄、馬公

本島に於ける飛行場は前記の通りであつて内臺、島内兩定期航空の用に供されつゝあり、殊に日泰定期航空の開始に依り本島は愈々亞歐連絡空の大支關となるに及び、臺北飛行場は國際航空港として其の面目躍如たるものあるを以て其の施設の如きも更に充實整備を要することゝなつた。

### 2 水上飛行場

本島より南洋方面への航空は飛行艇に依るべきを以て之に充當すべき水上飛行場を二箇年繼續事業として淡水に設置することゝし計畫中である。

### 3 航空保安施設

航空保安施設に關しては今夏企畫院主催の許に開催せられた航空委員會の決議に基き氣象、無線連



絡、航空燈臺及飛行場の擴充整備等に付昭和十五年より施設すべく之亦計畫中である。

一一

#### 四、航空工業

本島は内蒙、島内、國際の三航空路を有し又近き將來内外幾多の航空路の開發あるべきことを惟ふ時、速に本島に航空工業施設を確立して機材の不備、故障等に依る事業の蹉跌なからしむるは焦眉の急務なるを以て、之が前提として明年度より大日本航空株式會社に航空機修理工場を經營せしめ、之が經濟工場として成長する迄一定期間當府としては出來得る限り援助する豫定である。而して之を第一段とし將來は本島が電力豊富なる點及航空機材料の産地を手近に控へる點、其他勞賃等の關係より見て幾多航空工業上好條件を具備する點竝に航空工業の分散の必要ある點等を考へ、出來得可くんば近き將來に於て本島に航空工業を誘致し度いものと考へてゐる。

(以下次號)

## 本府臨時情報部の使命

東亞新秩序建設の炬火燃える眞唯中に、「和平救國」「善隣友好」と挺身絶叫せる汪兆銘氏の肉聲はわれらの耳朶を打ち、或は、「汕頭陥落」とか、「南寧占領」とかいつた神速果敢な皇軍の行動は時を移さず全世界に報道され、即刻世界の反響をも聞くことが出来るのは通信機關殊にラヂオの發達したお蔭である。

ニュースへの憧憬、これ實に人間の本能である。口から口へ、耳から耳へと傳へらるゝニュースは通信機關の進歩發達によつて驚異的に擴大したばかりでなく、時間的にも著しく速められた。かくして我々は居ながらにして世界に起りつゝある大小總ての事件を知り得るのである。

今や全球を掩つてゐる國際政局の不安の黒雲は、世界各國の神經を極度に緊張せしめ、各國は舉つて正

しく且つ詳しい情報の蒐集に努力すべくあらゆる手段に訴へてゐる状態である。如何にして中立國輿論を自國に有利に、相手國に不利に傾かしむるかに肝膽を碎き活潑な宣傳戰を闘はしてゐる。

この様に情報宣傳は武器なき思想戰として颯爽と登場し、戦時に於ける重大なる役割を果してゐるが、平時に於ても各國は微妙なる國際情勢に處して自國の立場を有利に導き、又深刻なる經濟戰の覇者たらんとし情報宣傳をやつて居り、従つて各國とも程度の差こそあれ情報宣傳には國家自ら大に意を用ひてゐるのである。例へば宣傳及び言論統一を以て國家存立の基礎條件としてゐるソ聯の情報宣傳機關が整備されてゐることは言ふに及ばず、ドイツ及びイタリーは特にそれ／＼宣傳省を設けて對外的にはニュースの國家統制を

一三



なし、對内的には國內輿論の完全なる統一を期し進んで國民の啓發宣傳に大童になつてゐる。ヒットラーやムツソリーニがそれ／＼國家統一に成功してゐるのも情報宣傳を重視したことがその大きな原因であつたことは疑ふべくもない。

我が國に於いても外務省に情報部が設けられ帝國外交の遂行に遺漏なきを期し、又軍事普及宣傳の必要に應ずる爲に陸軍省に情報部、海軍省に海軍々事普及部が設けられてゐる。一方我が文化を海外に紹介宣傳する意味に於て外務省文化事業部や鐵道省の國際觀光局が設けられてゐる。併しこれらの制度にはその仕事に於て一定の限界があり立場が限られてゐる。そこで國家的綜合的見地に基く國家の情報宣傳政策の確立と其の統制を圖る必要が痛感せられた結果新に内閣情報部が設けられたのである。

臺灣に於ても今次事變の勃發を見るや總督府に於ては臨時情報委員會を設けられたのであるが、まもなく總督官房に現在の臨時情報部を設置された。爾來二年

數箇月、情報部は情報宣傳に關する重要事務の連絡調整に當ると共に宣傳の實施に邁進して來たのである。情報部は右に述べた目的を以て働いて居るものであるが、以下その概貌について述べて見よう。

「情報の蒐集通報」内地、各外地官廳其他各地機關から來た情報を綜合整理して島内關係方面に送り、又島内及南支南洋情報を時を移さず内地其他の關係方面に通報する。

「部報」薄紫色の「部報」は總督府の發行してゐる唯一の綜合國策パンフレットで月に三回、毎回の部數一萬六千部に上り廣く内外に送附してゐる。その刊行の趣旨は本府の行はんとする政策の内容を廣く一般島民に傳へてその正しい理解を求め公正な輿論を作り、また南進據點臺灣の事情、南支の状況を全國に紹介して政府と一般國民との接觸を緊密にし、公明な政治の遂行に寄與せんとするものである。

國策徹底及島民教化放送 これは毎週水曜午後九時四十分より二十分間、本府部局長、課長其他情報部

長に於て適當と認められた人々が臺北放送局より全島々民に話しかけるのである。信頼性と迫力とに特色づけられる一つの聲が夜の空に傳はり、ひし／＼と全島民の耳に入り島民の感情を合一せしめずには措かない。

惟ふに國民の輿論を反映せぬ政治は獨善政治であり、國民の理解なき政治はたとへそれが正しい政治であつても國民の不安乃至無關心は遂にその實效を阻むであらう。「本放送」は前記の「部報」と共に全島民の耳目に遡へ官民一體の態勢にて歴史的偉業完成に邁進すべく期する次第である。

其他、戦局地圖、ボスターの作製、レコード、文化映畫の製作、並に推薦、展覽會の指導後援、巡回講演等各廳に屬せざる啓發宣傳に當つてゐる。映畫、レコードの推薦、進んで新聞雜誌の指導は情報部に課せられた新しき使命として文化政策上寄與するものがあらう。なんとすれば官廳の直轄的強制的態度でなくして文化機關に呼びかけ、新文化創造への欲求のまゝに國策遂行に向つて行かうとするからである。

以上は主として情報部の對内啓發宣傳に就て述べたが、臺灣は帝國の南の據點たる限り情報部はまたこの姿をばつきり登場させるべく南支南洋に對する所謂對外宣傳の重要な使命を荷ふてゐる。

この目的を以て昭和十三年十月共榮會が創設された。共榮會は情報部の指導監督の下に文化宣傳工作を行ふ團體であつて現に厦門に於ては日語講習、佛化宣傳、映畫館經營、巡回映寫、育英事業、施米、無料診療、其他他授産事業、日華會館の建設經營等を行ひ、廣東では大々的に映畫館の經營及各種雜誌、パンフレット、繪葉書等の作製配布を行ふ協榮印書館設立經營に力を集中してゐる。尙海南島、汕頭に對しても映畫館經營及巡回映寫を行ふて居るのである。

このやうに臨時情報部は國策遂行の基礎たる正確なる情報、我が帝國の眞意を國の内外に普く傳へる報道、又時局に處する適切なる啓發宣傳、南支大陸へ呼びかける日華親善等極めて重要な職務の遂行に奉公の誠を致して居る次第である。

## 新年の辭

小林臺灣總督

茲に昭和十五年の新春を迎ふるに方り先以て閩島六百萬の同胞と共に恭しく東天を拜して遙かに、聖壽の萬歳を頌し奉り益々盡忠奉公國恩に酬るの誓を新に致したいと存じます。

謹みて按ずるに、皇祖國を肇め給ひてより茲に二千六百年寶祚彌々堅く國運益々隆んに其の燦たる歴史は正に萬邦無比でありまして誠に感激に堪へざる所であります。殊に今次支那事變の勃發を契機とし東亞の新秩序を建設し、其の永遠の平和を確保せんとする崇高偉大なる聖業が、外は忠勇なる皇軍將兵各位の奮戦力闘に依り、内は報國の念に燃ゆる一億同胞の協力に依り着々巨歩を進めつゝあります事は誠に曠古の偉觀でありまして、生を當代に享けて此の聖業に参加し得

一六

ます我々は實に無上の光榮を擔ふものと申さねばなりません。而して此の聖業は二千六百年前、皇祖の宜はせ給へる八紘一字の御訓に基くものでありまして、今日歐洲の戰爭が或は強國間の爭覇であり或は一國が他國を併呑せん爲の野望であるのに較べますれば誠に月窟の差があるのであります。古語に徳孤ならず必ず隣有りと申しますが、如斯き盛んなる徳業に對し共鳴者の無い筈はなく、交戦地帯たる支那に於てすら既に幾多同發具眼の士の騰起を見たのであります。殊に昨年春以來汪兆銘氏の如き有力なる國民黨領袖が能く我國の眞意を理解し敢然立つて我國と提携し、東亞永遠の平和を確立せんが爲に將に強力なる新支那中央政權を樹立せんとして居ります事は實に同慶に堪へざる所であります。皇紀二千六百年の元旦に當り我々は能く之等の事態を認識し、皇祖の遺訓を鏡として雄渾なる氣魄の下、目前の艱難に屈する事なく所信の貫徹に邁往するの決意を新にしなければならぬと存するのであります。

纏つて本島は改隸以來茲に四十六年、歷朝の御仁慈と官民一致の努力とに依つて文物制度年を遂うて改まり民度大に進み殆んど世界に比類を見ざる發展を遂げ來つたのであります。而して支那事變勃發以後に於ては戰時體制下の皇國の一環として舉島一致奉公の誠を致し、殊に皇軍の活動南支那に及ぶや本島の特殊の地位に鑑み物心兩面に互りて或は直接皇軍に、或は占據地帯の復興に一段の力を盡し幾多の功績を擧げ各方面の稱讃と感謝の的となりましたことは洵に喜ばしき限りでありまして今後も益々此の譽を持続する如く努力せねばなりません。更に冷靜に反省して見ますと本島は從來南進の據點と云はれ來つたに拘はらず、内には一層急を要する諸事業の爲に、又外には多年排日抗日の氣運濃厚なりし爲に、事變前に於ては南進に必要なる人と物の準備完きに至らなかつたと考へられるのであります。然るに上述する如く今次聖戰に依り東亞の天地は親日明朗と化し南方の門戸は着々啓開されて居るのであります。我々島民は内に既存産業の技術經

驗を以て或は新興諸産業に依る物質を以て南進を策すると同時に、之に必要な人の準備を怠らず其の心構へを養ふ事が肝要と思ひます。之れ頓て現下必要とせらるゝ生産擴充、貿易振興となり又日支經濟、文化提携を密にし善隣交友、互助連環の實を擧げる所以であります。尙ほ本島は本年以後新航路、新航空路の創設に依り日本及支那と南支南洋をつなぐ交通の衝に立つ事に成らんとして居ります。則ち外來の客に對して先づ日本を紹介する立場に置かれるのであります。我々島民は興亞の大使命を持つ日本人を代表するに適はしい襟度と識量を持つやう奮發せねばならぬと存するのであります。

茲に三度事變下の新年を迎ふるに當り全島官民各位の幸福を祈り、敝上の新事態に鑑みて益々濶濶たる意氣を養ひ協心戮力皇國民たるの責務を果したいと念願する次第であります。

## 年頭の辭

總務長官 森岡二期

茲に昭和十五年皇紀正に二千六百年の輝かしき新春を迎ふるに當りまして謹みて、聖壽の萬歳と、皇室の彌榮を壽ぎ奉り併せて國運の隆昌を祈念致しますことは此の上もない歡喜と光榮を覺ゆる次第であります。支那事變も茲に第四年目にはいつたのであります。が、忠勇義烈な我が將兵の奮闘は熱誠極まる銃後國民の奉公と相俟つて愈々輝かしき戰績を擧げ、昨年十一月には南支の果に新なる作戰行動を起し、瞬く間に欽縣、南寧を攻略して有力な援蔣ルートを開断し將に廣西、雲南兩省を席捲せんとする勢を示しております。中北支亦それ／＼華々しき戰果を収め一方汪兆銘氏を主班とする和平救國運動は燎原の火の如く全支に瀰漫し、我が國朝野の熱烈なる支持と相伴つて新政權の誕

生は將に目睫の間に迫つて居ります。

纏つて歐洲に於ては昨年八月獨逸の戰亂勃發に伴ひも戰端が開かれ歐洲全土は今や亂麻の如き状態に陥つて居ります。然しながら帝國は曩に歐洲戰亂不介入の態度を決定し専ら支那事變處理に邁進致して居るのでありますから、國民は克く政府の方針を認識し右顧左眎することなく飽く迄東亞新秩序建設の大業實現に協力一致すべきであります。

時局下の臺灣と致しましては事變勃發以來能く其の使命を體認し、官民愈々緊張して至誠奉公を勵んで居るのであります。本島人の皇民化はその内容が益々充實の域に向つて居ります。總督府に於ては統治の根本方針と最近の實情に鑑み愈々昭和十八年度を期して初等教育に義務制度を施行することに府議の決定を致しました。此の事は帝國の外地教育制度に劃期的な革新を齎すものと信じて居ります。又産業の方面に於ては工業臺灣の建設が順調にその歩武を進め、米穀並に糖

業政策に一轉機を劃し、交通方面では花蓮港築港の完成、新高港築港の起工があり、その他時局の進展に伴ひ帝國南方發展の基地として臺灣の使命の益々加重するに鑑み各般の部門に涉り準備と用意を怠つて居ないのであります。又昨年十月東部山地に於て豐富な砂金層を發見致しましたことは特筆大書すべき事實であります。今日非常時に當り我臺灣に於て此の輝かしき發見を致しましたことは邦家のため洵に慶祝に堪へない所であります。

我國は今當に一大飛躍を遂ぐべき絶好の機會に恵まれて居ると申してよいのであります。この時皇紀二千六百年を迎へましたことは決して偶然ではないと考へられます。萬邦無比の國體と光輝ある歴史の成跡を

有する二千六百年、此の記念すべき年に當り此の國に生を享けたるもの何人か感奮興起せざるものがありませう。政府に於ても記念祭典及奉祝の式典を全國一齊に舉行する計を立て又既に數年前から官民共に各種の記念事業を企畫して居ります。固より事變中でもあり華美に互ることは避くべきであります。が内面的に意義深い奉祝の誠意が致されねばなりません。要は聖戰所期の目的を貫徹し八紘一字の大理想の實現に向つて邁進すべく全國民不退轉の決意と團結を固め、悠久二千六百年の歴史を今日に生かし將來に擴充することが最も奉祝の眞義に合するものと信するのであります。些か所懐を述べて年頭の辭と致します。

# 内外情報

## 壯丁團の美事

〔花蓮港臨時情報部〕 玉里街春日部は昭和十四年〇月〇日軍夫として勇躍應召目下前線にて活躍中であるが、春日部在住は遺家族保護の萬全を期すべく道路補修其他一般義務出役等も免じて来たが、今回二期作の收穫に際しては同地保甲壯丁團率先して之に當り、團長陳當虞君指導の下に團員十八名は早朝より同家の水田に赴き日暮れ迄終日泥濘、悪天候を物ともせず勤勞奉仕をなし無事收穫を終了したが、時局柄壯丁の出役の多き折柄我家の多忙をも顧みず率先遣

家族援助に當つた本行爲に對し遺家族は元より部落民は感激して居る。

## 感謝の架橋

春日部は玉里街の一部に編入され秀姑巒溪を挟んで玉里、三笠、瑞穂の各部落に對する特殊位置にあつて永久的の架橋なく秀姑巒溪増水毎に各所との交通は断たれ全く孤立の狀態に陥ることが屢々あり、折角の部落産物も其の收入の大半を運搬賃に充當され剩へ同部落には醫師の駐在もなく、急病患者等の際は施す術もないことは其の實例に乏しくないものであつて全く恵まれない土地で、部落民は此の兩地連絡假橋の架設に幾多献身的努力を拂ひ來たのであるが、暴風雨毎に橋梁の流失を見、且つ其の溪流に大なる變動を生じ、現

在大小合せて四溪流となり従つて架橋も従前より一層困難となつた、種々の事情で昨年中には到底架橋は望まれぬと殆んど断念されてゐたが、隣接瑞穂村有志の限りなき協力と部落内アミ族壯丁團の眞摯なる努力率仕によつて十二月上旬瑞穂、春日間を結ぶ自動車運行可能の美事な假橋の竣工を見茲に部落の死活路も拓かれ部落民は感喜と安堵を得瑞穂村民並にアミ族壯丁團の篤行に對し深く感激してゐる。

## 力強い友情

鳳林庄萬里橋一五八農業復興次君と同村一四九農業守田嘉藏君の兩名は、宜蘭郡員山庄内員山宇永廣一丸五日稼李鹿終(四十七歳)が痲病に罹り部落に彷徨ひ來たのを憐み之を空

屋に收容して附近本島人と共に衣食を與へ、且つ此の由を派出所に報知する等萬全の策を盡したが、十二月十七日郡警察課の手續によつて樂生院に送還保護することに決定したので部落二十戸から何分の寄附を仰ぎ十圓三十錢を集め旅費として本人に與へたが、李鹿終は渡る世間に鬼はないと感激しながら樂生院に向け出發したが附近本島人は兩君の友情に感激して居る。

## 鳳林國語講習所

### 生の演習會

國語常用は先づ家庭よりとの趣旨の下に國語不解者主婦ばかりを教育するため昭和十四年六月創立した鳳林私設國語講習所は教師に役場の陳書記、助教に電燈會社員林維松君が

當り又講習生は中年以上五十歳近くの主婦だけと言ふ特殊な講習會であつたが、何れも熱心に學び其の進境著しきものがあり、年末の多忙を割いてこの講習生の演習會を去る十二月十八日午後八時から同講習所に於て開催したが石村那視學、中島公學校長、吉井民作會長其他多數臨席を得て國歌奉唱、宮城遙拜、皇軍將兵に對する感謝歌に引續き演習に移つたが短期間の講習とは思へぬ程の上達成績振りを示し午後十時三十分終了した。

## ★廈門情報

### ◇同盟通信社支局開設

我が國の代表的通信社である同盟通信社では従來廈門には特派員を派遣する程度であつたが我が廈門の重要性に鑑み去

る十二月一日より正式に全園新日報社五階に支局を開設し、毎日二回市内にニュースを配給すると共に其の他一切の通信事務を開始し廈門宣傳に乗り出した。

### ◇廈門神社建立決定

廈門に於ては數年前から「廈門神社建立」の議が提唱されて居た處遂に實現を得ずして事變を迎へたが昨年五月廈門政略後、當市の復興建設は急速に進展し、今や同胞一萬を數へるに至つたので再び同胞守護の神たる神社建立の議勃然と起つて來たので十二月二日內田總領事は總領事館事務所にて日本民會各議員書記長、臺灣民會正副會長理事長等を召集神社建立實現の爲の打合會を開催左記を決定した。

1. 水戸長官、持田司令官を顧問に小豆澤大佐、中堂大佐、藤村書記官、澤村陸軍機關長を賛助員とし、內田總領事を委員長とし、各界人士を委員に組織する建立委員會を設置すること
2. これが建立費は現有基金の他在留同胞内地各地、臺灣各界の滯財寄附助成

金等を以て充當昭和十五年二月十一日に地鎮祭を行ひ四月二十九日の天長節に鎮座大祭を施行する

◆臺灣居留民増加

十一月末現在に於ける臺灣居留民の人口統計は次の通りである。

戸數	三、六八二
人口	八、四一九
大人	四、五九四
小人	七七七
合計	五、三七一
大人	二、三〇二
小人	七四六
合計	三、〇四八

而して十月末現在に比すれば戸數に於て二二二戸、人口に於て二八〇人の増加を示してゐる。

◆市立圖書館開館準備中

廈門特別市政府教育局は豫て社會教育機關として圖書館開設を企圖し市内水仙路に是を設けることに決定先般來建物を修築中の所近日中に竣工の運びとなつた

が事變前の積書は昨年の火災で灰燼に歸したので一般より新舊圖書の自發的寄附を仰ぐべく七日佈告を發した。

◆汕頭中國婦女會

廈門視察團の來厦

汕頭中國婦女會々長林露子、宣傳部主任黃蕙卿の兩女士は廈門視察團として十二月八日來厦各界の大歡迎を受けたが汕頭婦女會は現在三千九百餘名の會員を有し職業紹介所を設けて會員の就職や授産の世話をなし、八月中旬には軍の依頼にて女醫士の隊を組織するなど非常な活動をなし居る由、而して黃女士は最近迄猛烈なる抗日運動者として活動せる者に於て汕頭占領後轉向せるものなりと。

◆熾烈な日本語熱

中國人民衆の日本語研究熱は益々熾烈となつて來て居るが十一月中の各日語講習所の情況は左の通りである。

男	七九九名
女	一、一三六名

計 一、九三五名

◆廈門日本商工會 議所設置

新生厦門は今や復興も一段落を告げ一路建設街道を邁進しつつある現狀に鑑み、内田總領事は居留民も愈々國策の線に沿ひ、統制ある經濟的進出を策し斯く乗り出すべきだとの見解の下に先般來厦門日本商工會議所設置に付き立案中であつたが此程愈々成案を得、十二月一日、午後二時總領事館厦門事務所會議室に日臺人有力量家十數名の集會を求め内田總領事以下各關係官臨席第一回打合せ會を開催したが今年一月頃には開設の運びとなる豫定である。

◆厦門荷役倉庫公司創立

當厦門港の運送荷役業者は興亞院、市政府等の關係官廳の指導援助を得て昨夏來統制會社を組織すべく準備、數次の發起人會を開催中の所愈々十二月六日午後四時共榮會館三階に於て創立總會を盛大に舉行了、資本金拾萬圓(株五十圓二

千株である。

◆厦門の玄關東亞碼頭落成

昨春來建設中であつた大阪商船株式會社の「厦門碼頭」は其の後順調に工事進捗し愈々十二月十三日午前十一時同所に盛大な落成式を舉行了。同碼頭は元來大阪商船會社の建設に係るが新國策會社「東亞海運株式會社」の誕生により落成と共に同社が引継ぎ名稱も「東亞碼頭」と改められる、而して落成直後から、直ちに香港丸其の他は同碼頭に横付けされるが従來の船客の乗下船荷役等の不便は完全に一掃され、同第二期工事として、倉庫其他附屬建物も建設される計劃で厦門の門戸は次第に整備されて行く、何れにせよ新生厦門の建設工事の完成で各方面の喜びの的となつてゐる。

◆日本語の夕

共榮會では關係當局の援助の下に二十八日午後八時半より厦門放送局のマイクを通じて大乘佛教育會附設第二日語講

習生の第一回日本語講習會放送の夕を催したが中々の出来栄であつた。プログラムの通り。

1. 唱歌 故郷の廢家、雨降りお月さん 陳美珍外五名
2. 對話、私の好きもの 陳英媛外三名
3. 談話 私どもの講習所 翁 瑞 遙
4. 朗讀 厦門 黃 雲

◆臺灣居留民會 官選議員決定

臺灣居留民會昭和十五年度官選議員十

名に就ては先般來總領事館當局に於て慎重なる調査と詮衡を重ねつゝあつたが去る十七日確定告示第五十號を以て左の十氏が發表せられた。

黃 六	陳 璽
劉 壽 祺	陳 基
李 魁 奇	黃 談 根
蘇 嘉 和	江 重 槐
陳 添 發	林 平 城

(年令順)

臺灣總督府臨時情報部

昭和十四年十一月廿九日印刷  
昭和十五年一月一日發行(月三回發行)  
臺北市榮町二丁目十五番地  
印刷人 加 藤 豊 吉  
臺北市京町二丁目四十三番地  
印刷所 小塚本店印刷工場

行政官一覽表

昭和十五年一月一日現在

Table of administrative officers for the prefectural government, listing positions like 總督府 (Prefecture), 總務課 (General Affairs), 文書課 (Secretariat), and 文庫局 (Library), along with names and grades of officials.

Table of administrative officers for the municipal government, listing positions like 市長 (Mayor), 建設課 (Construction), 衛生課 (Health), and 交通局 (Transportation Bureau), along with names and grades of officials.



臺北州					新竹州				
典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄
刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所
七・四	六・四	六・四	六・四	六・四	七・四	六・四	六・四	六・四	六・四
大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田
次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎
三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎
工業研究所					稅務署				
事務官	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
五・六	五・六	五・六	五・六	五・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六
劉茂	劉茂	劉茂	劉茂	劉茂	吳宜	吳宜	吳宜	吳宜	吳宜
雲	雲	雲	雲	雲	剛	剛	剛	剛	剛
臺北州					新竹州				
稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課
一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五
川村	川村	川村	川村	川村	市來	市來	市來	市來	市來
亮一	亮一	亮一	亮一	亮一	敬治	敬治	敬治	敬治	敬治
岡	岡	岡	岡	岡	治	治	治	治	治
內務課	內務課	內務課	內務課	內務課	內務課	內務課	內務課	內務課	內務課
二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五
林吉	林吉	林吉	林吉	林吉	謙	謙	謙	謙	謙
谷一	谷一	谷一	谷一	谷一	剛	剛	剛	剛	剛
致信	致信	致信	致信	致信	剛	剛	剛	剛	剛
廣下	廣下	廣下	廣下	廣下	剛	剛	剛	剛	剛
日秀	日秀	日秀	日秀	日秀	剛	剛	剛	剛	剛
德夫	德夫	德夫	德夫	德夫	剛	剛	剛	剛	剛
島治	島治	島治	島治	島治	剛	剛	剛	剛	剛
西澤	西澤	西澤	西澤	西澤	剛	剛	剛	剛	剛
江村	江村	江村	江村	江村	剛	剛	剛	剛	剛
濱花	濱花	濱花	濱花	濱花	剛	剛	剛	剛	剛
三良	三良	三良	三良	三良	剛	剛	剛	剛	剛

臺南州									
典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄	典獄
刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所	刑務所
六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四
大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田	大山田
次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎	次郎
三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎
專賣局									
局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二
佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木
波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
警察官及司獄官練習所									
局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二
伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤
波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
臺南州									
稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課	稅務課
三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二	三・二
佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木	佐々木
波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤
波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外	波外
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七



警務事				知事	助市			郡	
務高部動教地部調稅					役尹 役尹			守東	
務七等長四七.八.五.八				務七.七.九	義七.六.七			石六.七.七	
加久加安若				加久加安若	川大黃			水溜	
藤武藤井常				藤武藤井常	茂越陸			酒築二	
吉彦喜義				吉彦喜義	義三			治	
庶務				助市	郡			所稅務出張	
務長				役尹 役尹	守			屏	
四.三.四.四				七.七.九	春港州東山山山			東五.五	
那藤田淳				江崎下益	西德島山米大波			秋山敬	
重德				克己	坂種一			治	
警務事				知事	助市			郡	
務高部動教地部調稅					役尹 役尹			守東	
務七.七.九				務七.七.九	義七.六.七			石六.七.七	
加久加安若				加久加安若	川大黃			水溜	
藤武藤井常				藤武藤井常	茂越陸			酒築二	
吉彦喜義				吉彦喜義	義三			治	

警務事				知事	助市			郡	
務高部動教地部調稅					役尹 役尹			守東	
務七.七.九				務七.七.九	義七.六.七			石六.七.七	
加久加安若				加久加安若	川大黃			水溜	
藤武藤井常				藤武藤井常	茂越陸			酒築二	
吉彦喜義				吉彦喜義	義三			治	
庶務				助市	郡			所稅務出張	
務長				役尹 役尹	守			屏	
四.三.四.四				七.七.九	春港州東山山山			東五.五	
那藤田淳				江崎下益	西德島山米大波			秋山敬	
重德				克己	坂種一			治	
警務事				知事	助市			郡	
務高部動教地部調稅					役尹 役尹			守東	
務七.七.九				務七.七.九	義七.六.七			石六.七.七	
加久加安若				加久加安若	川大黃			水溜	
藤武藤井常				藤武藤井常	茂越陸			酒築二	
吉彦喜義				吉彦喜義	義三			治	

デジタル情報センター  
JPN ONLINE LIBRARY  
http://www.riod.jp

昭和十四年下半年主要內容

〔自第六六號至第八三號〕

〔七月十二月〕

- 臺灣總督
  - ▽總督府評議會委員懇談會に於ける告辭……………六
- 總務長官
  - ▽總督府評議會委員懇談會に於ける挨拶……………六
  - ▽興亞奉公日に際して……………六
  - ▽重大時局下に於ける司法保護事業……………六
  - ▽國家總動員業務委員會に於ける挨拶……………七
  - ▽令旨奉體結核豫防國民運動實施に際して……………七
- 總督官房
  - ▽臨時情報部……………六
  - ▽汕頭攻略の意義……………六
- 三民主義と支那民衆思想……………六
- ▽廣東訪日婦女團座談會……………六
- ▽全島華僑の排英運動……………六
- ▽南洋華僑の本質……………六
- ▽島都の統後援護の姿……………七
- ▽全島華僑新中央政權成立促進運動……………七
- ▽泰國の砂糖業に就て……………七
- ▽戦時下の日本印象記……………七
- ▽南支調査局……………七
- ▽聖戰二周年と本府の南支に於ける協力状況……………七
- ▽企劃部……………七
- ▽時局下に於ける臨時國勢調査……………七
- ▽國家總動員の實行に就て……………七
- ▽昭和十四年臨時國勢調査に就て……………七
- ▽物資動員計畫に就て……………七
- ▽外務部……………七
- ▽東亞經濟ブロックと臺灣の將來……………六
- ▽會計課……………六
- ▽樹間運動會開催……………七
- 文教局
  - ▽社會課……………七
  - ▽時局と體育……………七
  - ▽經濟戰強調運動の要綱……………七
  - ▽七分搗米と混食勵行に就て……………七
  - ▽學務課……………七
  - ▽全臺灣學校皇軍樹間取扱状況……………七
- 内務局
  - ▽土木課……………七
  - ▽臺灣の國立公園……………七
  - ▽第二回地方議員の總選舉に當りて……………七
- 警務局
  - ▽地方總選舉に對して島民の自覺を期す……………七
  - ▽地方課……………七
  - ▽保安課……………七
- 高等法院
  - ▽臺灣司法事務狀況言上に就て……………六
- 臺灣憲兵隊
  - ▽聖戰二周年を迎へて……………七
- 工業研究所
  - ▽中研の改組と臺灣の工業化……………七
- 諸學校
  - ▽汕頭陥落と生徒兒童の感激……………七
  - ▽時局南支展覽會を見て……………七
  - ▽帝大醫學專門部……………七
  - ▽海南島の醫學奉仕より還りて……………七
  - ▽工業學校……………七
  - ▽愉快に勉強する支那留學生……………七
- 圖書館
  - ▽時局と圖書館……………七
- 南支派遣軍
  - ▽廣東攻略一周年を迎へて……………七
- 其他
  - ▽歐洲動亂と日本海運の使命……………七

- ▽地方總選舉取締に就て……………七
- 財務局
  - ▽金融課……………七
  - ▽經濟戰と國民生活……………七
  - ▽稅務課……………七
  - ▽支那事變と臺灣に於ける増稅減免等の概要……………七
- 殖産局
  - ▽商工課……………七
  - ▽國家總動員第六條の解説……………七
  - ▽絲配給統制規則の公布に當りて……………七
  - ▽國民徵用令の實施に就て……………七
  - ▽特産課……………七
  - ▽臺灣糖業令の公布に當りて……………七
  - 米穀局
    - ▽臺灣米穀移出管理に就て……………七
    - ▽米政課……………七
    - ▽臺灣米一期作實收高……………七
    - ▽管理米購入要綱……………七
  - 選信部
    - ▽保險課……………七
- ▽郵便年金法改正に就て……………七
- ▽監理課……………七
- ▽南洋放送に就て……………七
- ▽航空課……………七
- ▽グライダーと航空……………七
- ▽電氣課……………七
- ▽電力調整令に就て……………七
- ▽電力調整令は如何に動くか……………七
- 臺北州臨時情報部
  - ▽經濟警察と物價取締……………七
  - ▽臺灣農業勇團の歸還に際して……………七
- 新竹州臨時情報部
  - ▽新竹州の選舉經過概要……………七
- 臺南州臨時情報部
  - ▽臺南州會臨時會に當りて……………七
  - ▽臺灣に於ける國策遂行に就て……………七
- 高雄州臨時情報部
  - ▽興亞展覽會狀況……………七
- 花蓮港廳臨時情報部
  - ▽花蓮港築港開港に就て……………七
  - ▽東部産業の躍進に就て……………七

### 紀元二千六百年記念ポスター入選者発表

藝に國民精神總動員本部に於て募集中の紀元二千六百年記念ポスターは去る十二月十五日を以て締切り總數一八五點(内、臺灣より五五點、内地、朝鮮より一三〇點)の応募を見、銳意之が審査の結果次の通り入選者決定せり。

- 一等 賞金壹百五十拾圓**  
熊本市山崎町八  
永田 績
- 二等 賞金壹百圓**  
臺北市龍口町一ノ六  
小山 武郎
- 三等 賞金五十拾圓**  
東京市京橋寶町一ノ三  
平田 千代吉
- 佳作 賞金拾圓宛**  
神戸市神戶區山本通四丁目二四ノ三  
木島 武雄  
大阪市西成區新開通二ノ九  
廣本 大治  
大阪市西區北堀江上通三丁目一四  
阪本 雪子  
大阪市天王寺區生玉寺町一八番地  
大丸寄宿舍 小笠原健一  
大阪市浪速區南阪町一五七  
山村 忠雄

### 國民精神總動員本部

### 「部報」刊行の趣旨

本府の行はんとする政策の内容や意圖を普く一般島民に傳へて其の正しい理解を求め、又法令の趣旨や内容の普及を圖り、他方、銃後臺灣の活躍、南支の状況を廣く全國に紹介し、更に、本府の各種機關に依つて得られる内外の情勢、經濟、文化等に關する資料を公表して、當府と一般島民との接觸を緊密にし、公明な政治の遂行に寄與せんとするものである。

x x x

奮つて御寄稿あらんことを希ふ。尙掲載記事に對する御希望あらば情報部宛にお知らせを乞ふ。

### 「部報」配布狀況調 (昭和十五年一月一日現在)

配布先	個所部數	配布先	個所部數
島内之部 府各局課 州各學堂 直轄學校 公立圖書館	八 八 二七 一七	全國市役所 官立圖書館 朝鮮總督府 北海道廳 樺太廳	一 一 一 一 一
郵便局	一	新聞社	一
軍部關係	一	雜誌社	一
銀行會社	一	支店	一
新聞雜誌社	一	支店	一
華僑新民公會	一	支店	一
計	一八	支店	一
島外之部	八七	支店	一
內閣及各省	一〇〇	支店	一
總督府東京出張所	一〇〇	支店	一
各府縣廳	八〇	支店	一
計	一八七	支店	一

年百六千二紀皇  
員動總神精民國



期  
間

1月11-17日

書

館

週

間

會協館書國濟台

館書國府督總濟台

部  
報

昭和十二年九月二十日第三種郵便物認可  
昭和十五年七月一日發行

(毎月一日、十一日、廿一日發行) 第八十四號

本書の大きさは国定規格A5判